夜

山ざと〇さと、一本作寺、の春の夕暮きてみればいりあひのかねに花ぞ散ける

〔類聚名義抄二日〕曛許軍反ヒクレ

〔書言字考節用集二時候〕晩ヒクレ　晏同　迫晩同　薄暮同　曛黑同

〔倭訓栞中編二十一比〕ひぐれ　日暮を云、諺に日暮て道いそぐといふは、白居易が傳に、日暮道遠、吾生蹉跎とみえたり、

〔日本書紀二十八天武〕元年六月甲申、是日發途入東國、〇中略到大野以日落ヒクレヌ也、

〔書言字考節用集二時候〕晼ホノクレ晩日沒之時　曛黑同

〔日本書紀二十九天武〕十三年十一月庚午、日トリ沒時、星隕東方、

〔法然上人行狀畫圖十〕禮讃の時刻は、日にちもつ沒申時　初夜しよや戌時　半夜はんや子時　後ご夜寅時　晨朝しんでう辰時　日中午時なるべし、

〔書言字考節用集二時候〕薄ハクボ暮太平御覽、日將落曰薄暮、　晡ホジ時韵會、日加申時也、　晡ホセキ夕義同上

〔和爾雅二歲時〕旁バウボ暮日將晩也　薄ハクボ暮迫暮同　時キヤウ竟日暮之時、盡一日也、　景ケイ夕　頽タイ暮　黃クハウコン昏日落天地之色玄黃而昏々然也、又云昏黃、

定テイコン昏已冥也　向バン晩　熏クン夕　王ワウマウガトキ莽時羅山子曰、倭俗稱黃昏曰王莽時、言晝前漢也、夜後漢也、以日氣已沒夜氣未萌故也、然則名王莽時當哉、

〔書言字考節用集二時候〕王ヲマガトキ莽時俚俗、斥黃昏云爾、　昏コジミ鐘鳴俚俗、謂黃昏時爲昏鐘鳴、

〔饅頭屋本節用集古時節〕昏コジミ鐘鳴

〔倭訓栞中編八古〕こじみ　昏鐘鳴の音なりといへり、入相をいふ、

〔倭訓栞中編二十七由〕ゆふやみ　夕闇の義、俗にいふ、よひやみなり、

〔萬葉集四相聞〕豐前國娘子大宅女歌一首

夕闇ユフヤミ者、路ミチタ多ヅタ豆ヅタ多ヅ頭シ四、待ツキ月マチ而テ、行イマセワガセ吾コ背ソ子ノ、其マ間ニ爾モ母ミ將ム見、

〔類聚名義抄七夕〕夜音射ヨハ